

### 3. スクリプト・原稿案

#### 「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」

##### 【プログラムのねらい】

屏風を間近に見る体験を通して、文化財に親しんでもらう

- ・ 屏風本来の鑑賞の形を体験してもらう（同じ高さに置く）
- ・ 作品の世界を見て、感じて楽しむ
- ・ 感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れる

##### 【ポイント】

- ・ 文化財に興味を持ってもらい参加者が自ら進んで博物館へ行く、調べてみるという行為につながるように構成しています。
- ・ 文化財を見て感じることを通じて身近に思ってもらうことが目的のため、作品の名前や情報（作者や制作年代）などは最初に話さず、プログラムの途中にいれています。
- ・ 持ち帰り用のミニチュア屏風の裏に、調べ学習に対応できる最低限の作品情報をいれています。

青文字：全体の動き、講師の動き、参加者の動き

赤文字：目的にあわせ、目的や問いの内容などアレンジしてお使いください

緑文字：講師の方への補足説明

事前準備	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 屏風は閉じておく</li><li>・ 会場の照明は蛍光灯を使用し、カーテンがある場合は閉めておく</li></ul>
①挨拶・導入 (3分)	<p style="text-align: right;">(屏風全体が見えるような位置に参加者に座ってもらう)</p> <p><b>ごあいさつ</b></p> <p>今日のプログラム・授業は「(プログラムや授業の内容など)」です。</p> <p>※例えば「日本美術の良さや美しさを感じる授業」など、授業やプログラムの内容・テーマを入れてください。</p> <p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>東京国立博物館とレプリカ（複製）について</b></p> <p>みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです。</p> <p>本物は東京国立博物館にあって、ガラスケース越しに見られるときもありますが (※)、今日はみなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを東京国立博物館から送っていただきました。</p> <p>※展示予定は東京国立博物館のWEBサイトをご確認ください</p> <p>東京国立博物館は日本で一番古い博物館で、絵やよろいかぶとなど、古くから守り伝えられてきた日本やアジアの貴重な美術品、土偶や土器のように土の中から発掘されたものを守り、伝えている博物館です。こういったものをまとめて「文化財」と呼んでいます。(文化財 文字パネル掲出)</p> <p>今、みなさんの目の前にある絵の本物も文化財のひとつです。複製品・レプリカといっても、最新のデジタル技術と、京都の職人さんの伝統の技が使われている、本物と同じように作られた貴重な(大切な)作品です。この後、近くでみてもらいます。触らないように気を付けて近づいてくださいね。</p> <p style="text-align: right;">合計 3分</p>
②工程の説明 (1分)	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>今日することの説明</b></p> <p>では、今日は「(プログラム実施の目的やねらいなど)」を見て、知って、感じて、楽しむがテーマです。次の順番で絵を見ていきます。</p> <p>※例えば「日本で暮らしていた人たちが作った美術」など、授業やプログラムのねらいを入れてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ まず、屏風について知りましょう</li><li>・ 次に、描かれているものをじっくりみてみましょう</li><li>・ 一番最後にまとめの時間です。</li></ul> <p style="text-align: right;">合計 4分</p>

<p>③屏風を開く→ 照明 (7分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>屏風をひろげる (3分程度)</b></p> <p>それでは、屏風を広げていきたいと思います。 文化財を扱う人は、作品を傷つけないように時計やアクセサリなどすべて外します。そして、手には汗や油がついているので、きちんと洗ってから触ります。 絵が描いてあるところは触らずに、縁を持ってゆっくりと開きます <b>(屏風を広げる：送付する取り扱いマニュアル参照)</b></p> <p><b>屏風の色の変わり方をみる</b></p> <p>それでは照明を変えていきたいと思います。この作品が描かれた時代には、電気はありませんでしたので、明るいうちは太陽の光で、暗くなると油に火をともし行燈やろうそくの灯りで生活していました。 会場（教室）の蛍光灯を消して、昔の人が使っていた灯りに近い照明をつけたいと思います。一回、会場（教室）が暗くなります。 <b>(会場の蛍光灯を消し、赤い屏風照明点灯、1分静かに時間をとる)</b></p> <p>つづいて同じ位置から、今の蛍光灯の色に近い照明を当てます。 <b>(赤→白の屏風照明へ変更、1分静かに時間をとる)</b></p> <p>それでは点いている照明を消して、太陽の自然な光で見てみましょう <b>(屏風照明を消してカーテンを開ける、1分静かに時間をとる)</b></p> <p>みなさん、どうでしたか？見え方が違ったのではないのでしょうか。 それでは電気（実施会場の照明）をつけます。<b>(会場の照明をつける)</b></p> <p style="text-align: right;">合計 11分</p>
<p>④解説 (3分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>屏風を知る</b></p> <p>では、まず屏風についてお話します。 紙を貼ったパネルをつないだものを、「屏風」と呼びます。この作品は、右側と左側、それぞれに6枚のパネルがつながって作られています。(2枚や4枚のものもあります)</p> <p>→Q. 皆さん、屏風って知っていますか？見たことがありますか？</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">※意見を聞いていく際は、発言内容をリフレーズして全員に意見を共有する</p> <p>※「記者会見」、「結婚式」などの例が出ることが多いです。サイズは違いますが、「お雛様の後ろに立っているもの」も多いです。小学生だと、「おじゃる丸君</p>

の後ろにありませんでしたか？」など問いかけると思いだす参加者が多いです。こういった意見を交えながら、次の質問に進むとスムーズに進行します。  
※「家にある」、「使ったことがある」という意見が出たら、「どういうときに使いましたか？」など聞いてみてください。  
そのうえで、「屏風はおうちにある人もいますが…」という導入で、次の質問の回答部分に進んでください。

→Q. おうちにある人、使ったことある人（挙手してもらおう）

なかなか普通のおうちでは使いませんね。

屏風は今の家には（あまり）ありませんが、昔の人はおうちの中などで使っていました。

このパネルを見てください。（「屏風」文字パネル掲出）

屏風という漢字を見てもらうと、風という字と屏という字でできています。屏という字はさえぎるという意味です。つまり「風をさえぎる」という意味があります。

次のパネルを見てください。（「屏風」絵画写真パネル掲出）

昔の人が屏風を使っている場面が出てきました。屏風は、このように折り曲げて床に置き、ついたてや、パーテーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われ、ときには、アウトドアで使うこともありました。写真は、今、目の前にある屏風とは置き方が違いますね。

屏風は生活の中で使っていた道具だったので、いろいろな置き方ができるつくりになっています。この屏風は、反対側にも折れるつくりで、丸く囲むように置いたり、四角く置いたり、さまざまな置き方ができます。

合計 14 分

⑤鑑賞  
(5分)

(参加者の位置はそのまま、講師が尋ねながら動く)

作品から受けた第一印象を声に出してもらい皆で共有する

では、みなさんの意見を聞いてみたいと思います。

見てどんな感じがしましたか。気になったところ、感じたことがあったら教えてください。

※意見を聞いていく際は、発言内容をリフレーズして全員に意見を共有する

→ここから話が広がる場合は流れを切らさないように進行してください。

なかなか意見が出てこない場合は、次の質問を使用してください。

→Q. 何が書いてあるように見えますか？

→Q. この絵の中で、何が起こっていきそうだと思いますか？

→Q. どんな音が聞こえてきそうでしょうか？

	<p>→Q. どんな香り・匂いが<u>しそう</u>ですか？</p> <p>※見えたもの、感じたことの回答に間違いはないので、断定的な問いかけではなく、下線を引いた部分のような言い回しで意見を聞いてください。</p> <p style="text-align: right;">合計 19 分</p>
<p>⑥近づいて鑑賞 (18分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p>作品をいろいろな角度からじっくり鑑賞し、 松林図屏風の表現について理解する</p> <p>では、描かれているものについて、見ていきましょう。</p> <p>そのなかで、この絵の良いところや素敵などころをぜひ見つけてもらえると嬉しいです。まずは、近くによってじっくりと屏風を見てください。気になるところ、好きなところをみつけてみましょう。</p> <p style="text-align: center;">(参加者を屏風のちかくまで案内、1分たったら左右入れ替わりの声掛け)</p> <p>今日は私だけがお話をするのではなく、これからみなさんにもいろいろな意見を言ってもらいたいと思います。お友達の意見も聞いて、この屏風の良いところや素敵などころをたくさん見つけてくださいね。</p> <p style="text-align: center;">(この先、参加者はもとの位置に戻る、またはその場で、など臨機応変に対応)</p> <p>※ここからは問いの例を出していますので、プログラム・授業のねらいに併せて取捨選択してご使用ください。(すべてお使いいただく必要はありません)</p> <p>※参加者から意見を聞いた後に続けて「どのあたりを見て、そう感じたか」「なぜそう思ったか」を尋ねると、いろいろな感じ方を学ぶ機会にもなります。発言内容をリフレーズして全員に意見を共有してみてください</p> <p><b>描かれているもの</b></p> <p>→Q. 何が描かれているように見えますか？</p> <p>※「木」、「山」、「空気」、「霞」、「霧」などの回答が出ることが多いです。霞や霧のように描かれていないものもありますが、その場合は「どのあたりに見えますか」など尋ねてみてください。もし木、以外に意見がない場合は、次の問いをご使用ください。</p> <p>→Q. 木以外に見えるものはありますか？</p> <p>→Q. 何の木が描かれていると思いますか？</p> <p>※松、杉、もみの木などの回答があると思います。</p> <p>この屏風には実は松の木が描かれています。松の木や林はみたことありますか？ 実際の松の写真をちょっと見てみましょう。(松の写真パネル掲出)</p>

いろいろな松林の写真です。

この写真のような風景は見たことがありますか？絵と写真を比べてみてどうでしょうか。同じところ、違うところがあるのではないかと思います。

→Q. 同じに見えるな、と思うところがありますか？

※「木の形」、「木の細さ」、「冷たそうなところ」、「朝っぼい」、などの回答が出る  
ことが多いです。

→Q. ここが違うように見える、と思ったところも教えてください。

「木の本数」、「色」、などの回答が出る  
ことが多いです。

### 風景

→Q. 絵のような風景を見たことがありますか？（どこで見ましたか？）

→Q. 写真のような風景はどうでしょうか？

※なかなか意見が出てこない場合は、次のような問いかけを使用してみてください。

比べながら見てみると、私は色の違いに気づきました。写真は緑の葉や地面、青い空などがありますが、絵は黒であらわされています。他にはどうでしょうか？

### 色

→Q. 何色が使われていますか？

※「黒」、「白」、「グレー」、「墨」のほか、「赤（落款部分）」、「茶色（経年劣化した紙の色）」など描くために使用された屏風の素材の色に関する回答がある場合もあります。その際は、その場所を指し示して肯定する言い方でリフレーズしてください。

実は、この絵はいろいろな色を使わずに、黒（墨）一色で濃さを工夫して描いています。白い絵の具は使わずに、紙の白を生かして周りを黒くすることによって山を描いています。

※墨の授業として使用する場合は、太い線、細い線、筆の向きなどのキーワードを出すと、よりじっくりと見ることに繋がります。

### 配置・空間

→Q. 松の本数はどうでしょうか？

→Q. 地面と空の境はあると思いますか？

	<p><b>没入体験：この風景に入れたら…</b></p> <p>→Q. 音は聞こえると思いますか</p> <p>→Q. 天気や気温はどれくらいだと思いますか</p> <p>→Q. 季節はいつごろだと思いますか？</p> <p>→ (春夏秋冬で挙手) どのあたりを見て、感じてそう思ったか。</p> <p>→Q. 何時くらいの風景だと思いますか？</p> <p>※参加者から意見を聞いた後に続けて「どのあたりを見て、そう感じたか」「なぜそう思ったか」を尋ねると、いろいろな感じ方を学ぶ機会にもなります。</p> <p>どんな季節に見えるかな、とか何時くらいかな、とか、みなさんの意見を教えてもらいましたが、いろいろな見方がありました。いろいろな見方ができるのが、この絵のすごいところです。</p> <p style="text-align: right;"><b>合計 37 分</b></p>
<p>⑦まとめとアンケート (8分)</p>	<p style="text-align: center;"><b>(屏風全体が見えるような位置に参加者に座ってもらう)</b></p> <p><b>まとめ</b></p> <p>この屏風の絵を描いた人は、きっと写真のような松林の風景をみたのではないかとおもいます。そして、たくさんの色を使わずに、黒(墨)でいろいろな色を表しました。写真より松が少ないですが、松を選んで描いたのかもしれない。</p> <p>※この後の部分は参加者の意見を総合してまとめてください</p> <p>今日は、「(プログラム実施の目的やねらいなど)」を、松林図屏風を見ることを通して、感じて、楽しんでもらいました。いろいろな作品を見ると、どんな風景かな、とかこのまわりにはどんな風景がひろがっていそうだろう、など想像したりすると、それぞれの作品の面白いところに気付いたり、楽しくみることができると思います。</p> <p>みなさんにいろいろな意見を教えてもらいましたが、人によって見え方や感じ方が違いました。ひょっとすると明日見てみると、また違った感じ方をするかもしれません。見る人の体調や気持ちによって、実は見え方も変わっていきます。</p> <p>これから博物館や美術館に行くこともあると思うので、その時は今日のプログラム(授業)を思い出しながら、いろいろな作品を見て楽しんでくれると嬉しいです。</p> <p>「(プログラムや授業の内容など)」授業はこれでおしまいです。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>※ごあいさつで伝えた授業やプログラムの内容を入れてください。</p> <p style="text-align: center;"><b>(参加者用アンケートの記入/持ち帰りミニ屏風セット配布)</b></p> <p>※配布する際は「今日見た屏風のミニチュアをみなさんにお渡ししますので、ぜひお家で飾ってみてくださいね。」など伝えてください。</p> <p style="text-align: right;"><b>合計 45 分</b></p>

### 【作品を知るための参考文献】

1. 東京国立博物館（編） 2010『長谷川等伯：没後400年』東京国立博物館
2. 黒田 泰三 2010『もっと知りたい 長谷川等伯 生涯と作品』東京美術
3. 2015『別冊太陽 166 長谷川等伯』平凡社
4. 2010『芸術新潮 没後400年記念特集 長谷川等伯 《松林図屏風》への道』新潮社

### 【作品の情報】

所蔵先：東京国立博物館

指 定：国宝

制作年：安土桃山時代・16世紀

作 者：長谷川等伯（はせがわとうはく）

大きさ：各 縦 156.8 横 356.0 ※複製品は本物と同じ大きさです。

品質形状：紙本墨画 ※複製品は和紙に印刷です。

### 「ColBase：国立文化財機構所蔵品統合検索システム」

<https://colbase.nich.go.jp/>

4つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と一つの研究所（奈良文化財研究所）の所蔵品を、横断的に検索できるサービスです。

（松林図屏風）

[https://colbase.nich.go.jp/collection\\_items/tnm/A-10471?locale=ja](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-10471?locale=ja)

このURLから作品の高画質な画像や音声ガイドのダウンロードができます。